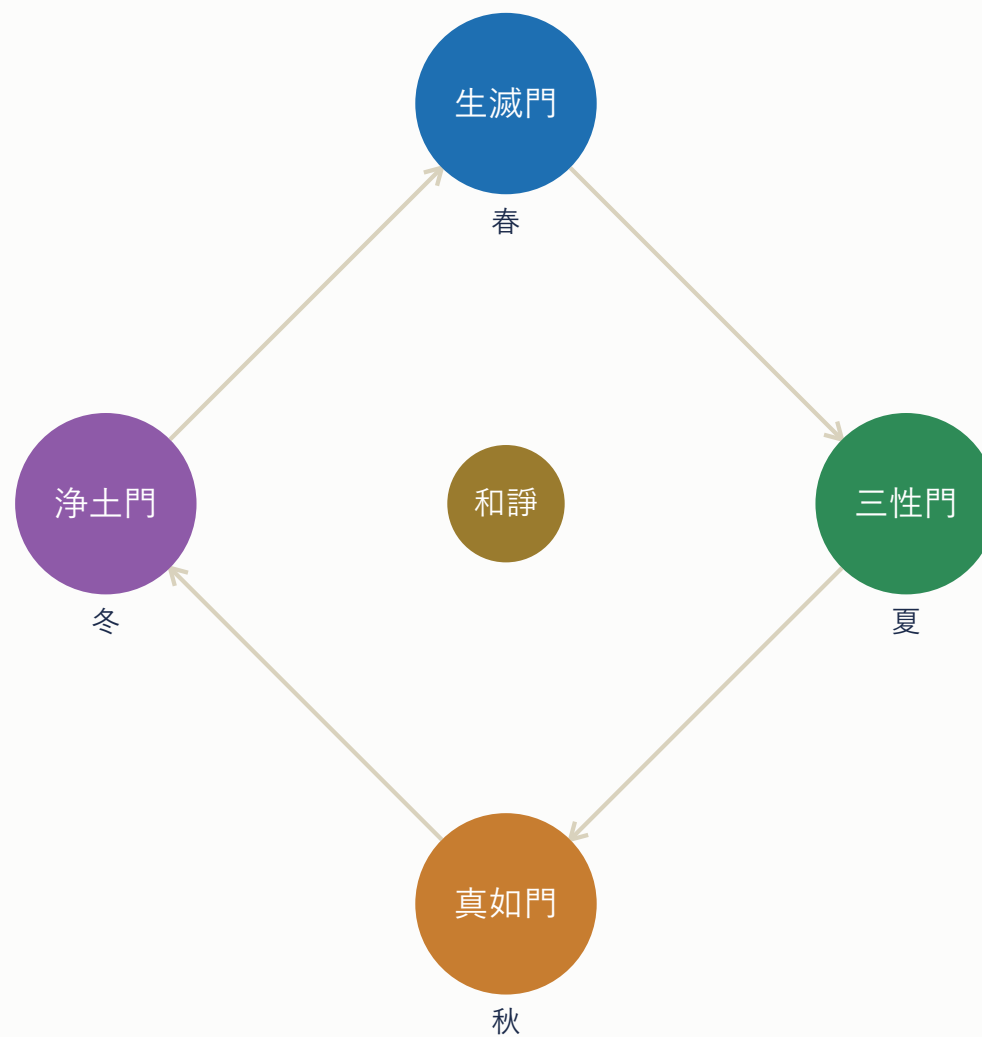


四門（四門）和諍と四つの相関的思惟 ①

7. 四門（四門）和諍と四つの相関的思惟

四門和諍 ↔ 四季循環



二項和諍と立体的思惟

- 真如門（中観）と生滅門（唯識）
- 一心二門への統合、体と用
- 道教的ミメーシスと対応

三項和諍と循環的思惟

- 唯識の三性説への拡張
- 遍計所執・依他起・円成実
- 仏教的ミュトスと対応

四項和諍の完成と春夏秋冬

- 浄土門を加え四門構造へ
- 開合の論理＝開けば四、合すれば一
- 春夏秋冬の循環的秩序に配置

如来蔵・浄土・華嚴・禅宗の大統合

- 異なる伝統も共通の土台を共有
- 本覚＝本来すでに悟りの論理
- 自力と他力の一致・境界の消滅

比較

7. 四門（四門）和諍と四つの相關的思惟

区分	真如門（眞如門）	生滅門（生滅門）
哲学的態度	体（體）——本質的側面	用（用）——現象的作用
主要学派	中觀（中觀）	唯識（唯識）
核心概念	破邪（破邪）——誤った見解を打ち破る	顯正（顯正）——正しい道理を顯す
性格	絶対的平等（空であること）	相対的差別（因縁に従う）

7. 四門（四門）和諍と四つの相関的思惟

従来の二大和諍（起信論）	唯識三性に基づく拡大和諍	和諍の論理
真如門（眞如）	円成実性（圓成實性）	絶対的真理（空でありながら満ち満ちている）
生滅門（生滅）	依他起性（依他起性）	現象的縁起（因縁に従った現れ）
（生滅門の下位）	遍計所執性（遍計所執性）	主観的妄想（打ち破るべき対象）

比較

7. 四門（四門）和諍と四つの相關的思惟

名称	核心的性格	四季への配当	和諍における役割
真如門（眞如門）	絶対的な空（中観）	秋	本質への回帰（破相）
生滅門（生滅門）	現象の生起（起信論）	春	現象の理解（表象）
三性門（三性門）	存在の分析（唯識）	夏	偽と眞の弁別
浄土門（浄土門）	慈悲による救済（浄土宗）	冬	実践的な帰依と休息

7. 四門（四門）和諍と四つの相関的思惟

季節	門（門）	関連する思想	和諍の核心
春	生滅門	華嚴	一輪の花に宇宙が収まるように（一即多）、生滅する現象がそのまま真理である
夏	三性門	禅宗	妄想（遍計）を一刀のもとに断ち、本質（円成実）を直観する峻烈さ
秋	真如門	如来蔵	あらゆる殻を剥ぎ取り、内面の純粋な仏の種子を確認する
冬	浄土門	浄土	種子を抱き、巨大な慈悲の懷で憩いながら新たな生命を準備する